

推進施策のイメージ

前提

市政運営

市政の運営における公正の確保及び透明性の向上を図り、市民の権利利益を保護する。
行政手続・情報の共有・個人情報の保護・説明及び応答責任

「市民参画」による「協働」のまちづくり

参画

審議会
公聴会
懇談会等
ワークショップ
パブリックコメント
アンケート
計画策定への参画

アウトカム

公募委員数の増加
公聴会・懇談会等の参加者の増加
ワークショップ等への参加者の増加
パブリックコメントへの意見増加
アンケートの回収率の増加
計画策定への参加者の増加

成果

1. 参画意識の向上

2. 自主性の向上

協働

○自主性を尊重する
○意識啓発を行う
○まちづくりに必要な人材育成を図る

戦略（施策）

市民協働機会の創出
市民活動への支援
研修・講座等の開催
地域課題や問題の共有化
広報広聴の充実
主体間をつなぐ連携の仕組みの構築
市民ネットワーク形成支援

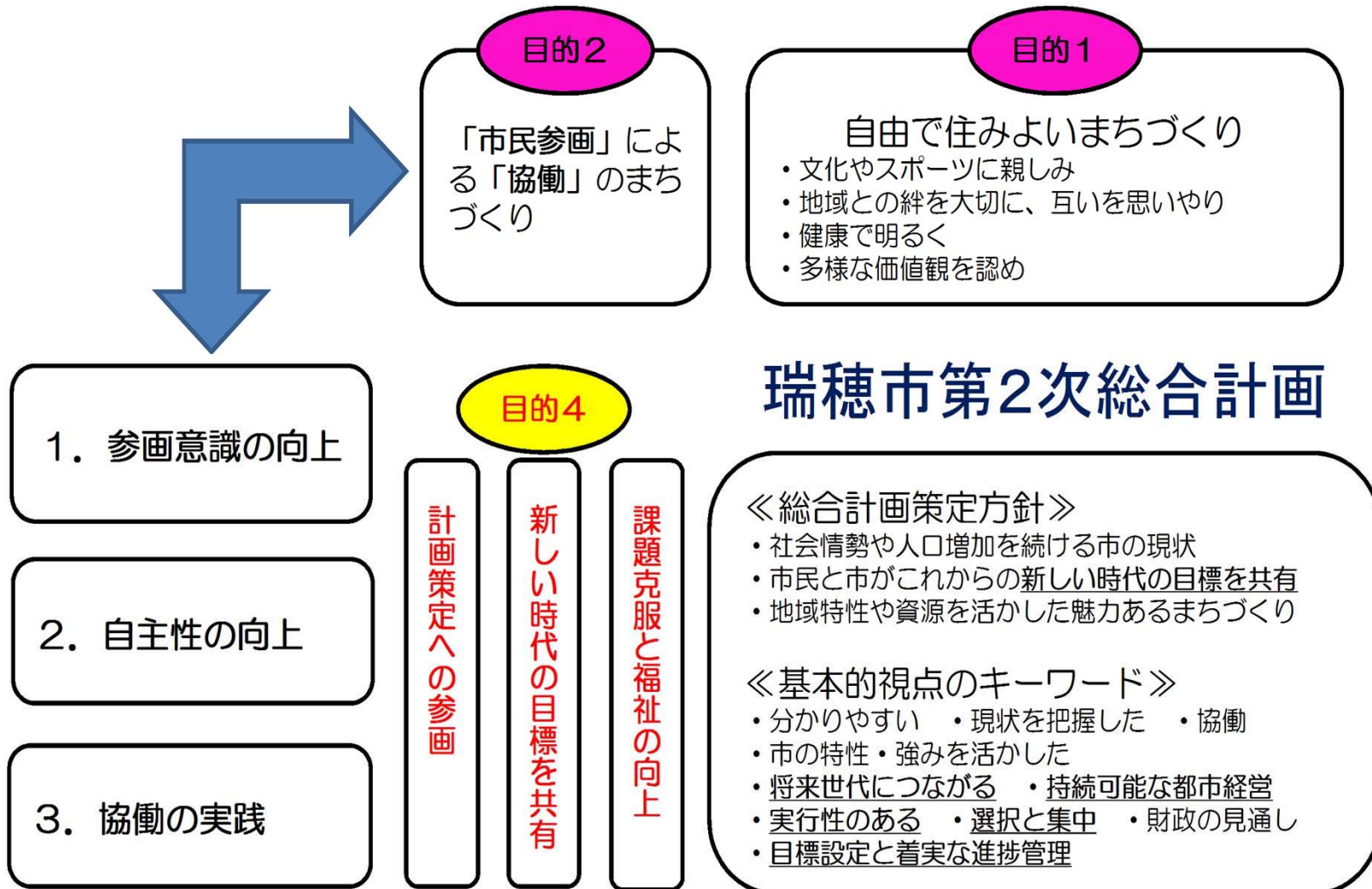
アウトカム

○市民発議の提案事業を採用した市民と行政との協働事業の実施
○地域課題の解決に向けた地域内協議への行政からの参加
○企業・大学生の活用

成果

3. 協働の実践

総合計画に係る推進プラン



事例 1 東海市（愛知県）

第6次東海市総合計画（H26～H35）

【めざす姿】

（1）市民との協働・共生によるまちづくり

市民が望み、そして市民の意思を大切にした5つの理念と「めざすまちの姿」を実現していくために、市政運営の基本として、市民参画と市民との協働と共創によるまちづくりを進めます。

めざすまちの姿の実現に当たっては、自助・共助・公助の相互連携を基盤に、市民、地域、団体、行政など全てのまちづくりの主体が目標を共有するとともに、それぞれが果たすべき責任と役割を明確にして、共に手を携え、相互に補完し、協力して進めるものとしします。

また、計画期間中の各施策の改善状況や課題などについても、定期的に市民と市の双方で確認し、また、検証していくなど市民参画型の進行管理を行います。

事例 1 東海市（愛知県）

《施策 1》

●地域活動・市民活動を推進する。

コミュニティ・町内会・自治会・市民活動団体などの自主的な活動を支援します。

また、地域活動・市民活動の拠点となる市民活動センター、地区公民館・市民館の活発な利用を促します。

《成果指標》

- ①市民活動に参加している人の割合
- ②地域や隣同士でのつきあいを大切にしている人の割合
- ③市民活動センター来館者数
- ④地域公民館・市民館利用者数

事業：◆地域まちづくり支援事業

◆コミュニティ活動支援事業

◆町内会・自治会活動支援事業

事例 1 東海市（愛知県）

《 施策 2 》

● 市民活動を推進する

市民ニーズを市政運営に効果的に反映させるため、政策立案や事業計画の策定・推進など、様々な場面で市民との対話やワークショップの手法を活用するなど、多くの市民がまちづくりに参画する機会を充実します。

《 成果指標 》

① 各種審議会委員の応募した人の割合

事業：◆ 市民参画推進補助事業

◆ 各種委員の公募

事例 1 東海市（愛知県）

《施策 3》

●市民との協働を推進する

市民と市が地域の課題について、共に考え活動する「協働型」のまちづくりの実現に向け、人材育成やまちづくり活動を支援します。

《成果指標》

- ①市と市民団体などが協働で行う事業数
事業：◆まちづくり協働推進事業

【報告案件】

瑞穂市の未来を語ろう！
ワールドカフェの実施について

瑞穂市の未来を語ろう！ ワールドカフェの実施について

1. 開催概要

日時 平成26年12月14日(日)

① 午前の部 9:30～11:30 ② 午後の部 13:30～16:30

場所 瑞穂市総合センター 5階 会議室

参加者 ①20人 ②11人 (合計33人)

2. 内容 大テーマ「瑞穂市の未来を語ろう」

第1ラウンド(テーブルごとの話し合い)

グループテーマ

「自己紹介+いままであなたはまちづくりにどんな関わり方をしてきましたか？」

第2ラウンド～第3ラウンド(テーブルごとの話し合い)

グループテーマ

「瑞穂市の未来にどんなまちづくりの関わりがあったらいいと思いますか？」

シェアリング(分かち合い)

瑞穂市の未来を語ろう！ワールドカフェ

参加者の心に残った一言

- なんとなく暮らせるまち
- もっと住みよいまちに
- 夢のあるまち
- ゆったりとすごせるまち
- 夢・未来 ○ 全てが希望
- 多様 ○ 関心
- 目的を持ってスタート！
- 女性・若者の活躍
- 情報提供とPR ○ 若い人との話し合い
- 老若男女の意見交換
- まちづくりはひとづくり 世代間を越えて交流を
- 災害のないまち ○ 助けてもらえるまち
- 繋がり繋がる ○ 参加と和づくり

瑞穂市の未来を語ろう！ワールドカフェ

分かち合い（シェアリング）

- ・ 瑞穂市はなんとなく暮らせるまちだが、これからの将来を考えることは必要
- ・ もっと住み良いまちにすれば、もっと人口も増えるのでは
- ・ 話合いの場がないので、話し合って夢が持てるように
- ・ 何か困ったときに「助けて」と言えるまちに
- ・ ゆったりと過ごせることを幸せと気付けるまちになってほしい
- ・ 縦にも横にも繋がりが大切
- ・ 自治会などの活動に関心をもつことが必要
- ・ 世代間交流と若者の意見を聴くこと
- ・ 瑞穂市は災害のないまちなので希望が持てる
- ・ 福祉ボランティアなど地域活動を実践しているが、人数不足で組織も不安定
- ・ 環境対策などできることからやっていきたい

アンケート結果

1. 満足度(個人%で表記)
平均満足度(82.0%)
2. 「ワールドカフェ」という対話の手法の認知度
・参加したことがある (6人) ・名前だけ知っていた(6人) ・知らなかった (11人)
- 3 思ったことを言えましたか？
・充分言えた (3人) ・言えた(16人) ・あまり言えなかった (2人)
・どちらでもない (1人)
- 4 その他感想や、今後参加したいテーマ
・若い人たちとの意見交換
・行政に対する要望の話し合い
・若者は未来をどうしたいか
・子育て支援について
・議員の有り方
・雑談しながらテーマを決めていくのも良いのでは
・地域の対話
・住民参加のきっかけづくり
・ファシリテーター養成講座
・瑞穂のまちづくり、地域づくり

【報告案件】

市民アンケート結果について
(速報)

1. 調査の概要

【調査目的】

瑞穂市第2次総合計画の策定にあたり、市民の意識・意向を把握し、計画策定の基礎資料とするため、市民を対象としたアンケートを実施

【抽出方法】 無作為抽出

【調査方法】 郵送法

【調査期間】 平成27年2月6日～2月23日

【回収状況】

発送数	回収数	回収率
3,300件	1,271件	38.5%

回答者の属性 ①

①性別

男性 43% 女性 56%

②年齢

60歳～69歳	23.0%	70歳以上	18.5%
40歳～49歳	18.2%	30歳～39歳	15.6%
50歳～59歳	14.9%	18歳～29歳	9.2%

③家族構成

親と子の二世帯世帯	50.4%
夫婦のみ世帯	23.8%
親・子・孫三世帯世帯	17.8%
単身世帯	5.5%

回答者の属性②

④ 職業

会社員・公務員・団体職員	33.3%
無職	19.1%
パート・アルバイト	15.7%

⑤ 居住年数

30年以上	41.0%
10年～19年	19.4%
20年～29年	15.7%
5年未満	13.0%
5年～9年	9.7%

a. 転入前の居住地について（市外転入者のみ回答）

- 県内から転入 74.8%
（岐阜市42.5%・大垣市14.8%・北方町、本巣市5.0%）
- 県外から転入 25.2%
（愛知県53.7%・東京都5.7%・静岡県5.1%）

b. 転入前の瑞穂市への居住の有無（市外転入者のみ回答）

ある 14.2% ない 76.5%

回答者の属性③

⑥居住地（小学校区）

穂積小学校区	27.	0%
本田小学校区	17.	9%
牛牧小学校区	17.	6%
南小学校区	10.	0%
生津小学校区	9.	6%
西小学校区	9.	0%
中小小学校区	7.	3%

市への愛着度

①市への愛着度 (Q1 あなたは、瑞穂市に愛着をどの程度感じていますか?)

愛着を感じている	36.9%
やや感じている	41.9%
あまり感じていない	17.0%
感じていない	3.1%
無回答	1.2%

年齢別の傾向

●愛着を感じている + やや感じている			
70歳以上	86.8%	18歳~29歳	72.3%
●あまり感じていない + 感じていない			
18歳~29歳	25.2%	70歳以上	11.1%

★愛着を感じている + やや感じている 78.8%

市への定住意向①

②市への定住意向

(Q2 あなたは、これからも瑞穂市に住み続けたいとおもいますか?)

いつまでも住み続けたい	49.1%
当分住み続けたい	30.8%
わからない	10.2%
できれば他市町に移住したい	7.6%
すぐにでも他市町に移住したい	0.5%
無回答	1.7%

年齢別の傾向

●いつまでも + 当分住み続けたい

70歳以上 89.7% 18歳~29歳 64.7%

●わからない

18歳~29歳 22.7%

★いつまでも + 当分住み続けたい 79.9%

市への定住意向②

③市に定住したい理由(あてはまるもの2つまで)

住み慣れていて愛着がある	40.9%
交通の便が良い	40.3%
買い物や外食が便利	22.5%
学校や仕事、家族の都合	15.4%
自然が多くまちの環境が良い	14.5%
災害や犯罪が少ない	14.0%

性別の傾向

●住み慣れて+交通の便が良い

男性 88.2% 女性 76.1%

●買物や外食が便利

男性 20.1% 女性 24.8%

★定住したい理由 = 住み慣れて+交通の便が良い

市への定住意向③

③市に定住したくない理由(あてはまるもの2つまで)

- Q2の答え ●できれば他市町に移住したい 7.6
●すぐにでも他市町に移住したい 0.5%

交通の便が良くない	32.0%
まちに愛着がない	21.4%
近所づきあいや人間関係が良くない	19.4%
その他	16.5%
学校や仕事、家族の都合	13.6%

性別の傾向

- 交通の便が良くない
男性 25.0% 女性 36.5%
- まちに愛着がない
男性 22.5% 女性 20.6%
- 近所づきあいや人間関係が良くない
男性 22.5% 女性 17.5%

★定住したくない理由 = 交通の便+愛着ない+近所づきあい

行政サービスについて①

①行政サービスの水準と負担のあり方

Q7 市の財政状況が厳しくなる中、これからの行政サービス水準と市民負担のあり方についてどう思いますか？

行政サービスの種類によっては、サービスを受け入れる
人の負担が増えることはやむを得ない（やむをえない） **46.5%**

行政サービスの維持・充実よりも、市民負担を増やさな
いことを優先すべき（負担を増やさない） **33.4%**

わからない **7.9%**

市民負担が増えたとしても、行政サービスの維持・充
実を優先すべき **5.6%**

年齢別の傾向

●やむをえない

40歳～59歳で高い 70歳以上で低い

●負担を増やさない

70歳以上で高い 30歳～49歳で低い

行政サービスについて②

市の公共施設のあり方

Q8 公共施設（市役所庁舎、学校、公民館などのいわゆるハコモノ）についておたずねします。福祉や医療、子育てなど、将来に向けて必要な行政サービスを維持するうえで、今後の瑞穂市の公共施設のあり方についてあなたのお考えに近いのはどれですか？

**老朽化した施設や重複した施設などの廃止や統合、用途
の転換を行い、経費を減らすべき（経費を減らす）** **55.8%**

**公共施設は必要であり、施設使用料の増額は行わず、税
金で維持すべき（税金で維持）** **19.7%**

**公共施設は維持すべきであるが、そのためなら施設使用
料が現在より高くなっても仕方ない（高くなっても仕方ない）** **17.4%**

年齢別の傾向

●経費を減らす

全年齢層で高い（5割）

●税金で維持

18歳～39歳、70歳以上で高い 60歳～69歳で低い

行政サービスについて③

重複施設について

Q9 合併して12年が経過しましたが、公共施設の中でも同じ機能を持った施設（重複施設：例えば市役所庁舎・図書館・公民館など）が複数あります。建物などの老朽化に伴う維持・管理・更新（改修を含む）などにかかる将来負担を考慮した上で、このような重複施設についてどう思いますか？

利用状況を調査した上で、廃止や統合を考えるべき 44.4%

現状のままだが望ましいが、維持・管理・更新などにかかる将来負担が増加するのであれば、**廃止や統合を考えるべき** 25.1%

廃止や統合するなどの対象施設の優先順位を決め、**積極的に進めるべき** 16.5%

維持・管理などにかかる経費を削減し、廃止や統合などは**まだ考えない** 8.0%

廃止や統合を考える(進める)べきの回答 86%

今後の暮らしについて

①今後10年間のまちづくりにおいて重点的に取り組むべきこと

Q5 瑞穂市の「今後10年間のまちづくり」において、特に重点的に取り組むべきだと思うものはなんですか？(あてはまるもの3つまで)

①医療・福祉・介護の充実	42.7%
②高齢者対策	33.7%
③道路・公園・下水道などの公共インフラ整備	32.2%
④公共交通（鉄道・バスなど）の充実	24.1%
⑤子育て支援策	21.8%
⑥機能的な都市空間の創出（駅周辺のまちづくりなど）	16.8%
⑦行財政の健全化	10.1%
⑧学校教育の充実	9.9%
⑨商工業の振興	7.7%
⑩自然環境・景観保全	7.7%

年齢別の傾向

- ①50歳～69歳で高い ②60歳以上で高い ③30歳～39歳で高い
④30歳～39歳、70歳以上で高い ⑤30歳～39歳で高い
⑥年齢が低くなるほど高い ⑦30歳～49歳で低い ⑧30歳～39歳で高い
⑨40歳～49歳で高い ⑩60歳～69歳で高い

土地利用

Q11 市全体の土地利用の仕方についてどう思いますか？

(あてはまるもの2つまで)

働く場や地域を支える工場・事業所が少ない	33.2%
公園などの憩いの場が少ない	26.0%
子育て・医療・福祉など、暮らしに欠かせない利便施設が少ない	23.1%
買い物や食事、娯楽などを楽しめる場が少ない	20.9%
交通基盤を生かせていない	18.5%

年齢別の傾向

- 働く場や地域を支える工場・事業所が少ない
50歳以上で高く、年齢があがるほど高い
- 公園などの憩いの場が少ない
30歳～39歳で高い
- 買い物や食事、娯楽などを楽しめる場が少ない
18歳～29歳で最も高く、年齢が下がるほど高い

土地利用（活性化）

Q12 今後、市の活性化に必要な土地利用はなんだと思いますか？
(あてはまるもの2つまで)

道路・公園・上下水道などの整備を進め、良好な住環境を形成する	31.2%
空地や未利用地などの有効利用を促進する	27.0%
穂積駅周辺のにぎわいを創出する	25.6%
優良な農地の積極的な整備や耕作放棄地の解消を図る	11.6%
大規模な区画での開発を進める	9.7%

年齢別の傾向

- 道路・公園・上下水道
30歳～49歳で高く、18歳～29歳、50歳～59歳で低い
- 空地や未利用地
30歳～39歳で高い
- 駅周辺のにぎわい
18歳～29歳が最も高く、年齢が上がるほど低い

土地利用（居住地別）

Q12 今後、市の活性化に必要な土地利用はなんだと思いますか？
（あてはまるもの2つまで）

道路・公園・上下水道などの整備を進め、良好な住環境を形成する	31.2%
空地や未利用地などの有効利用を促進する	27.0%
穂積駅周辺のにぎわいを創出する	25.6%
優良な農地の積極的な整備や耕作放棄地の解消を図る	11.6%
大規模な区画での開発を進める	9.7%

居住地別の傾向

- 道路・公園・上下水道 = 本田小学校区、南小学校区で高い
- 空地や未利用地 = 西小学校区、南小学校区で高い
- 駅周辺のにぎわい = 穂積小学校区、牛牧小学校区で高い
- 優良な農地整備、耕作放棄地解消 = 中小小学校区で高い
- 大規模な区画での開発を進める = 中小小学校区で高い

人口政策

Q13 瑞穂市では、現在も人口増加傾向が続いていますが、日本全体の人口が減少するなかで、瑞穂市の人口政策について、次のうちどの考え方が重要だと思いますか？

- ①人口が減少しても住みよいまちをつくることに努めるべき 33. 2%
- ②他の政策も考慮しつつ、一定の対策を講じて、人口減少対策を実施すべき 30. 4%
- ③瑞穂市の人口は減少していないので、当面は他の政策を優先すべき 19. 4%
- ④他の政策よりも、人口を増加させることを優先して財源を集中すべき 5. 5%

年齢別の傾向

- ① = 全年齢層で高い
- ② = 40歳～69歳で高い（一定の対策実施）
- ③ = 30歳～59歳で高い（当面は他の政策）
- ④ = 40歳～49歳で低い（人口増加を優先）

居住地別の傾向

- ① = 西小学校区、中小小学校区で高い
- ② = 南小学校区で高い
- ③ = 牛牧小学校区で高い
- ④ = 生津小学校区、中小小学校区で高い

まち・ひと・しごと総合戦略

Q14 国では、急速な少子高齢化の進展による人口減少問題に対応していくための国家戦略（「まち・ひと・しごと総合戦略」）の作成が進められており、瑞穂市においても「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」を策定することが求められます。この「まち・ひと・しごと総合戦略」として瑞穂市が取り組むべきだと思う施策は何だと思いませんか？

- | | |
|--------------------------------|-------|
| ①子育てしやすい環境を整備・充実する施策 | 31.3% |
| ②企業誘致、農業等農場産業振興など地域の雇用創出に関する施策 | 22.3% |
| ③近隣市町との連携を強化するなど広域的な行政施策 | 13.1% |
| ④市内大学との連携、若者の就業支援など若者の定着に関する施策 | 9.9% |
| ⑤駅前のにぎわい拠点、多世代交流拠点の形成に関する施策 | 8.7% |
| ⑥結婚・妊娠・出産などに関する総合的な施策 | 7.7% |

年齢別の傾向

- ① = 30歳～39歳で高い（子育て世代）
- ② = 年齢が高くなるほど高い（雇用創出）
- ③ = 70歳以上で高い（広域連携）
- ④ = 18歳～29歳で高い（就業支援）
- ⑤ = 18歳～29歳で高い（にぎわい創出）
- ⑥ = 18歳～29歳で高い（結婚・妊娠・出産）